

2026 年 6 月 23 日

株式会社博報堂 D Y ホールディングス

株式会社読売広告社

YOMIKO、自治体向けの「生成 AI 活用実践研修プログラム」提供開始

—生成 AI を“試す段階”から“業務に組み込む段階”へ。現場で使いこなす力を育成—

博報堂 D Y グループの株式会社読売広告社（本社：東京都港区 代表取締役社長：菊地 英之、以下 YOMIKO）は、自治体業務の特性を踏まえた「生成 AI 活用実践研修プログラム」の提供を開始しました。本プログラムは、生成 AI の基礎理解にとどまらず、自治体職員が日常業務の中で生成 AI を適切に活用できる状態をつくることを目的とした、実務直結型の研修プログラムです。



※画像の一部は生成 AI を使用して作成しています。

■開発背景

生成 AI は急速に普及し、自治体業務においても業務効率化や情報発信の高度化など、さまざまな活用可能性が注目されています。一方で、実際の業務現場では具体的な活用イメージを持ちづらく、個々の検証や試験的な活用にとどまり、日常業務に十分に結びつけられていないケースも少なくありません。特に自治体業務では、限られた人数で幅広い業務を担い、専門分野を一人で抱えて相談相手も少ないなか、公的情報としての正確性が強く求められるため、生成 AI を適切に使いこなす力を身につけることが重要となっています。

こうした状況を踏まえ、YOMIKO は、情報発信や行政コミュニケーションに長年携わってきた知見を活かし、自治体業務の特性を踏まえた生成 AI 活用支援の一環として、本研修プログラムの提供を開始しました。

本プログラムの開発過程で行った自治体職員向け研修では、受講者の多くが「生成 AI への理解が深まった」「活用意欲が高まった」と回答しています。

■本研修の特長

1. 自治体業務の特性を踏まえた実務直結型研修

自治体において日常的に発生する、企画立案、資料作成、情報整理、住民向け発信などの業務を想定し、生成 AI を「どの業務で、どのように使うべきか」を具体的に学べる内容で構成しています。ツールの使い方に留まらず、業務判断や表現に配慮が求められる自治体業務ならではの活用視点を重視しています。

2. 自治体ごとの課題や業務内容に応じたカスタマイズが可能

自治体ごとに異なる業務内容や課題感に応じて、実施テーマ・時間調整・受講対象者の調整が可能です。**それぞれの自治体の実情に寄り添った形で導入できる点**を特長としています。

実施テーマ例：広報・シティプロモーション業務、市民対応・窓口業務の効率化、政策立案・調査業務の効率化 等

3. 理解から実務定着までを見据えた段階的な構成

生成 AI の基礎的な理解から、実務を想定したワークまでを段階的に構成し、「知る」だけで終わらず、**日常業務への活用イメージを持てる状態**を目指します。

<3 時間プログラム例>

 **プログラム** 約3時間 (休憩を含む)

STEP1	約40分	生成AIの基礎理解	AIとは何か／世代別の受容度／主要ツールの特徴と選び方／著作権・ハルシネーションの理解
STEP2	約20分	行政業務への活用を知る	行政での活用事例／マーケティング領域での応用／効果的な活用シーンの整理
STEP3	約60分	実務課題解決ワーク	実際の業務課題を題材にしたハンズオン／プロンプト作成実践／業務への適用可能性を検討
STEP4	約20分	未来協創ワーク	中長期的な活用の可能性を探る／組織としての導入戦略を考える／AIとの「協働」の未来を描く

■ 生成 AI 活用の業務定着を見据えたアプリ開発支援について

YOMIKO では、本研修プログラムに加え、生成 AI 活用を実際の業務に定着させるためのアプリ開発や活用支援についても、自治体のご要望に応じて伴走支援が可能です。

研修を通じて整理した業務課題や活用方針を踏まえ、特定の業務に即した生成 AI ツールやアプリの設計・開発を検討することで、「理解する段階」から「業務に組み込む段階」へとつなげます。

■ 講師について

YOMIKO に所属する生成 AI を活用した業務設計やツール導入支援に携わってきたメンバーに加えて、生成 AI の業務活用や導入支援に関する専門的な知見を持つ外部パートナーとも連携しています。

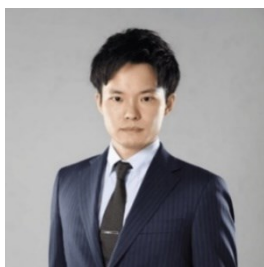


岡村 明理

デジタルコンサルティングセンター データコンサルティングルーム ルーム長

AI&データ コンサルタント

AI&データ活用領域に軸足を置き、AI を活用した売上予測等、データ起点のマーケティング支援を手がける。現在はデータ活用と AI 開発を担う部署の部長として、データ×AI によるビジネス価値創出をテーマに、Dify を活用したアプリ開発、AI アバターによる広報コミュニケーション、AI キャラクターロボット開発など、自社およびクライアント向けソリューションの企画開発に従事。



岸田 崇史

株式会社 Omluc 代表取締役

東京工業大学 物質理工学院にて、AI と遺伝子工学を用いたウイルス材料の最適化研究を行う。同大学院修了後、味の素株式会社に入社し、半導体向けの材料開発に携わり、AI を用いた実験効率化・高度化をリードする。2023 年 2 月に株式会社 Omluc を設立。生成 AI 領域に特化した事業を行っており、Udemy の Dify 講座受講者数は 2,500 名を超える。2,000 名以上が参加する日本最大級の Dify ユーザーコミュニティ「Dify Studio」ファウンダーも務めている。著書は、「Dify ではじめる 業務効率化 AI アプリ開発 AI を会社に根付かせる実践ガイド」(マインナビ出版)。

■今後について

今後は、各自治体の課題や規模に応じた形で、全国の自治体への展開も視野に入れて提供を進めていく予定です。ノーコードでの AI 活用に加え、Claude Code を用いた AI エージェント開発の研修も取り入れ、職員自身が業務に合ったツールをつくり、改善していく内製力の育成も支援します。YOMIKO は、博報堂 D Y グループの横断的な AI 専門家集団 HCAI Professionals の活動の一環として、本ソリューションを通じて、生成 AI を“導入する自治体”から“使いこなす自治体”への転換を支援し、行政 DX と住民サービスの質向上に貢献してまいります。

■読売広告社について

YOMIKO は、広告ビジネスにとどまらず、デジタル領域、流通／営業領域など幅広い領域のコンサルティングビジネスを展開しています。また、企業や自治体、研究機関など様々な仲間と社会課題を解決する「コミュニティ クリエイション®」や、市民がまちに対して持つ愛着や誇りを可視化した「CIVIC PRIDE®」指標を活用するなど、「まちづくり」に関わる領域のビジネスを推進し、構想から実装までを支えています。YOMIKO はこれからも、ビジネスと社会のサステナブルな成長のために、ともに変化に挑戦する「GAME CHANGE PARTNER」となることを目指していきます。

URL : <https://www.yomiko.co.jp/>

■Omluc について

Omluc (オムラック) は、企業の業務に溶け込む AI エージェントを設計・開発し、現場への実装まで担うスタートアップです。ノーコード／ローコードで生成 AI アプリを構築できるプラットフォーム「Dify」の導入支援を入り口に、その先にある業界特化型の AI エージェントの構築を行なっています。業界ごと、企業ごとに異なる課題や業務プロセスに合わせてエージェントをオーダーメイドで設計し、企画構想から実装、社内への定着までを一気通貫で伴走。企業や自治体の現場で業務時間を大幅に削減する成果を重ねてきました。また、日本の Dify ユーザーコミュニティ「Dify Studio」の運営や代表による実践書の出版を通じて、培った知見を広く社会に還元しています。テクノロジーを駆使して新たな価値を創造し、イノベーションを実現することを目指し、Omluc は企業や社会の AI 活用を着実に前へと進めていきます。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社読売広告社 広報部 中澤 koho_mail@yomiko.co.jp

株式会社博報堂 D Y ホールディングス グループ広報・IR 室 koho.mail@hakuhold.co.jp